

I 調査結果の概要

1 中小漁業経営体の経済

(1) 漁船漁業経営体

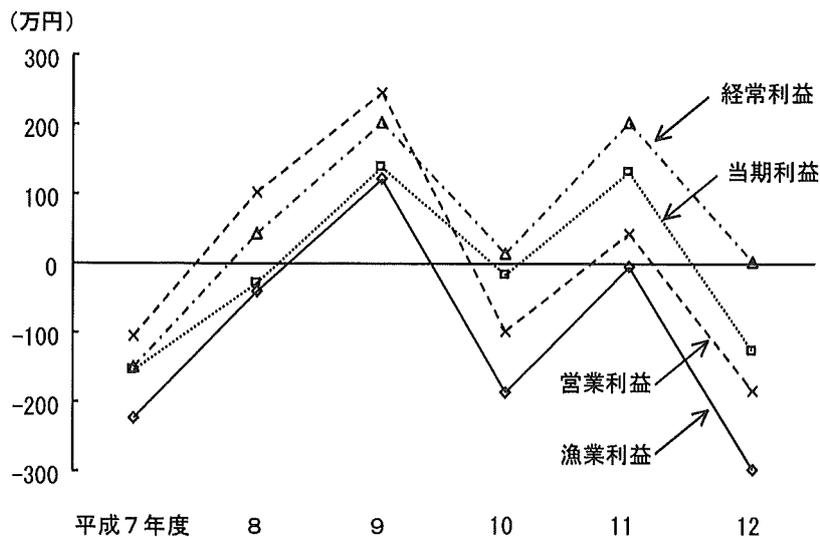
ア 漁船漁業1経営体当たり平均（漁船漁業平均）

平成12年度における中小漁業経営体のうち、漁船漁業経営体の経済の概要を漁船漁業平均で見ると、前年度に比べ漁業収入の減少額が支出の減少額を上回ったため、漁業利益は前年度に比べ大幅に減少しマイナス297万円となった。

また、営業利益及び経常利益についても前年度に比べ減少しており、当期利益はマイナス127万円で、前年度は黒字であったが当年度は赤字となった。

なお、漁業利益及び営業利益は過去5年間で最も低く、経常利益及び当期利益は平成7年度に次ぐ低水準となった。

図1 漁船漁業経営体の諸利益の推移（漁船漁業平均）



(ア) 損益の状況

a 漁業利益はマイナス297万円で、前年度のマイナス5万円から赤字幅が292万円増加した。

なお、漁業収入は1億244万円で前年度に比べ1,086万円(9.6%)減少し、漁業支出は1億371万円で前年度に比べ767万円(6.9%)減少した。

b 営業利益はマイナス184万円で、前年度は43万円の黒字であったが227万円減少し赤字に転じた。

なお、漁業外利益は113万円であったため、営業利益の赤字幅は漁業利益と比べ縮小した。

c 経常利益は2万円で、前年度の204万円から黒字幅が202万円縮小した。

なお、事業外収支は186万円であったため、営業利益は赤字であったが経常利益は黒字に転じた。

d 当期利益はマイナス127万円で、前年度は130万円の黒字であったが257万円減少し赤字に転じた。

表1 漁船漁業経営体の経済の概要(漁船漁業平均)

単位：千円

区 分	平成12年度	11	増減率(%)	前年度差
損 益 の 概 要				
漁 業 利 益	Δ 2 965	Δ 49	-	Δ 2 916
漁 業 収 入	102 439	113 295	Δ 9.6	Δ 10 856
漁 業 支 出	103 708	111 376	Δ 6.9	Δ 7 668
漁 業 外 利 益	1 127	480	-	647
営 業 利 益	Δ 1 838	431	-	Δ 2 269
経 常 利 益	17	2 035	-	Δ 2 018
当 期 利 益	Δ 1 273	1 301	-	Δ 2 574
資産・資本の概要(期末)				
資 産 総 額	161 817	171 750	Δ 5.8	Δ 9 933
流 動 資 産	70 551	71 136	Δ 0.8	Δ 585
固 定 資 産	91 267	100 615	Δ 9.3	Δ 9 348
負 債 総 額	145 029	155 012	Δ 6.4	Δ 9 983
流 動 負 債	77 928	79 233	Δ 1.6	Δ 1 305
固 定 負 債	67 100	75 779	Δ 11.5	Δ 8 679
自 己 資 本	16 789	16 739	0.3	50

- 注：1 漁業利益＝漁業収入－(漁業支出＋見積り家族労賃)
 2 漁業外利益＝漁業外事業収入－漁業外事業支出
 3 営業利益＝漁業利益＋漁業外利益
 4 経常利益＝営業利益＋事業外収入－事業外支出
 5 当期利益＝経常利益＋特別損益－消費税又は法人税
 6 上記の1～5については、以降の各表において同じ。

(イ) 資産・資本の状況（期末値）

資産総額は1億6,182万円で前年度に比べ993万円（5.8%）減少した。これは過去5年間でみると最低額となった。

資産の内訳は流動資産が7,055万円（うち、当座資産が5,630万円）であり、固定資産は9,127万円であった。

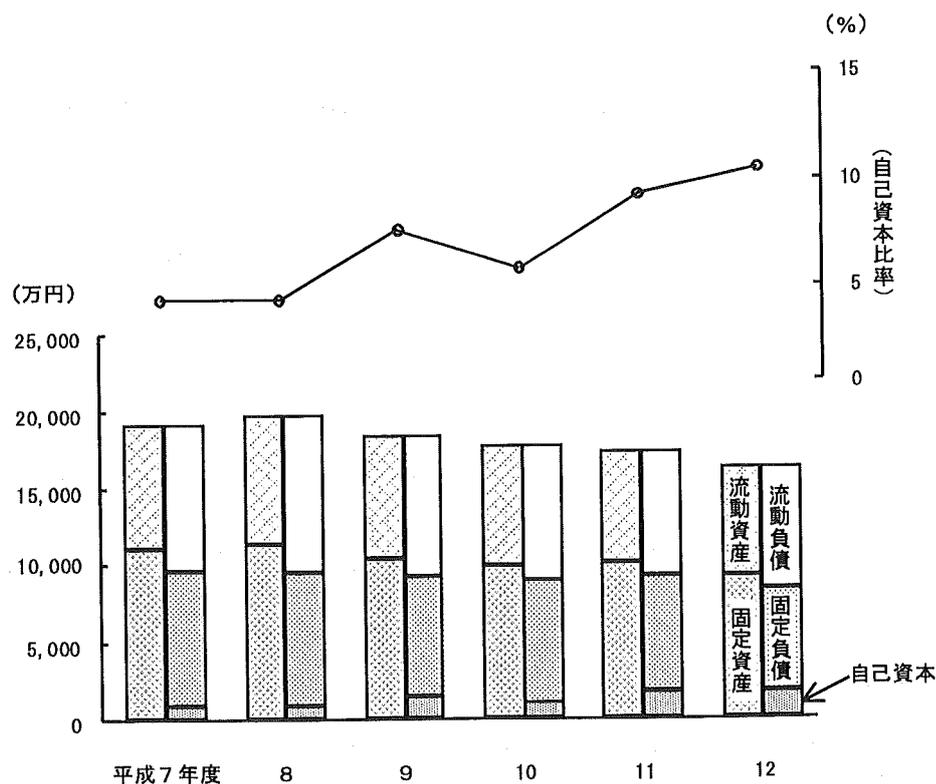
負債総額は1億4,503万円で前年度に比べ998万円（6.4%）減少した。

負債の内訳は流動負債が7,793万円であり、固定負債が6,710万円であった。

自己資本は1,679万円で前年度に比べ5万円増加した。これは過去5年間でみると最高額となった。

なお、自己資本比率は10.4%で前年度に比べ0.7%増加し、過去5年間で最も高い値であった。

図2 漁船漁業経営体の資産・資本の推移（期末値）



イ 経営体階層別平均

損益の状況について経営体階層別にみると、次のとおりである。

(ア) 漁業利益は200～500トン階層では352万円で黒字であったが、それ以外の階層では赤字であった。

特に50～100トン階層及び100～200トン階層では赤字幅が前年度に比べ大幅に拡大し、また500トン以上階層では前年度の黒字から2,085万円の赤字に転じた。

(イ) 営業利益は200～500トン階層では黒字であったが、それ以外の階層では赤字であった。

なお、漁業外利益が全ての階層で黒字であったため、200～500トン階層では営業利益の黒字幅が拡大し、それ以外の階層では営業利益の赤字幅が縮小した。

(ウ) 経常利益は10～30トン未満、30～50トン及び200～500トン階層では黒字であった。

(エ) 当期利益は30～50トン及び200～500トン階層では黒字であった。

図3 漁船漁業経営体階層別の漁業利益

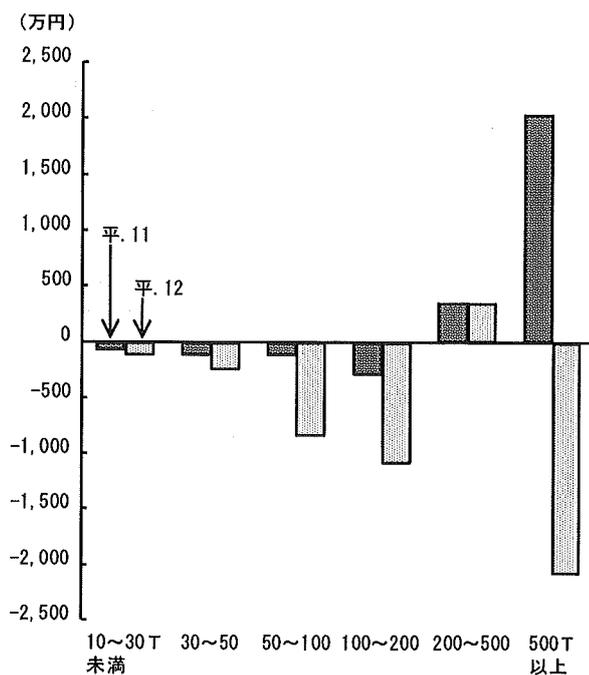


表2 漁船漁業経営体の損益の概要 (階層別平均)

単位：千円

区分	10~30T未満	30~50	50~100	100~200	200~500	500T以上
漁業利益	△ 1 294	△ 2 485	△ 8 528	△ 10 998	3 520	△ 20 846
漁業収入	42 536	67 510	123 708	229 771	385 403	903 925
漁業支出	41 512	69 995	132 236	240 769	381 883	924 771
漁業外利益	199	327	96	1 465	6 728	18 186
営業利益	△ 1 095	△ 2 159	△ 8 433	△ 9 533	10 248	△ 2 660
経常利益	313	1 581	△ 4 533	△ 1 956	7 032	△ 3 767
当期利益	△ 154	1 256	△ 7 802	△ 4 216	6 236	△ 18 990

(2) 大型定置網漁業経営体（1経営体当たり平均）

ア 損益の状況

前年度に比べ漁業収入の減少額が大きかったため、漁業利益は776万円減少し992万円となったものの、前年度に引き続き黒字となった。

また、営業利益及び経常利益についても黒字であったが前年度に比べ減少しており、当期利益は1,354万円で前年度に比べ185万円減少したものの、前年度に引き続き黒字となった。

イ 資産・資本の状況

資産総額は2億4,789万円で前年度に比べ1,372万円（5.2%）減少した。

負債総額は1億4,759万円で前年度に比べ533万円（3.5%）減少し、自己資本は1億30万円で前年度に比べ839万円（7.7%）減少した。

表3 大型定置網経営体の経済の概要

単位：千円

区 分	平成12年度	11	増減率(%)	前年度差
損 益 の 概 要				
漁 業 利 益	9 918	17 674	-	△ 7 756
漁 業 収 入	172 559	188 958	△ 8.7	△ 16 399
漁 業 支 出	162 641	171 284	△ 5.0	△ 8 643
漁 業 外 利 益	△ 1 023	△ 728	-	△ 295
営 業 利 益	8 895	16 946	-	△ 8 051
経 常 利 益	16 130	18 798	-	△ 2 668
当 期 利 益	13 535	15 386	-	△ 1 851
資産・資本の概要（期末）				
資 産 総 額	247 889	261 608	△ 5.2	△ 13 719
流 動 資 産	168 344	179 391	△ 6.2	△ 11 047
固 定 資 産	79 545	82 217	△ 3.2	△ 2 672
負 債 総 額	147 591	152 916	△ 3.5	△ 5 325
流 動 負 債	99 872	102 368	△ 2.4	△ 2 496
固 定 負 債	47 719	50 548	△ 5.6	△ 2 829
自 己 資 本	100 298	108 692	△ 7.7	△ 8 394

2 漁労体統計（1漁労体当たり平均）

漁業利益を黒字及び赤字別に前年度と比較した結果は次のとおりである。

（1）漁業利益が黒字であった漁労体

ア 1 そうびき沖合底びき網専業50～100トン階層では、漁獲量が増加するとともに漁業収入は増加したが、一方で漁業支出も増加した。また支出の増加額が大きかったため、漁業利益は12万円減少し264万円となったものの、前年度に引き続き黒字であった。

イ さんま棒受網兼業100～200トン階層では、さんまの漁獲量が大幅に増加するとともに漁業収入は増加したが、一方で漁業支出も増加した。また支出の増加額が大きかったため、漁業利益は1,026万円減少し1,530万円となったものの、前年度に引き続き黒字であった。

ウ まぐろはえ縄専業200～500トン階層では、漁業収入は増加し漁業支出はわずかに減少したため、漁業利益は3,054万円増加し52万円となり、前年度の赤字から黒字に転じた。

（2）漁業利益が赤字であった漁労体

ア 1 そうまきあぐり網専業50～100トン階層では、漁業収入、支出共に減少したが、収入の減少額が大きかったため、漁業利益は3,261万円減少しマイナス2,001万円となり、前年度の黒字から赤字に転じた。

イ かつお一本釣専業200～500トン階層では、かつおの漁獲量は増加したものの、びんながの漁獲量が減少したことから、漁業収入も前年度に比べ減少した。一方、漁業支出も減少したものの、収入の減少額が大きかったため、漁業利益は4,578万円減少しマイナス3,216万円となり、前年度の黒字から赤字に転じた。

ウ いか釣専業100～200トン階層では、漁業収入は減少し、さらに漁業支出がわずかながら増加したことから、漁業利益は593万円減少しマイナス1,754万円となり、前年度に比べ赤字幅が拡大した。

表4 漁労体の漁業収支状況

単位：千円

区 分	漁業利益			漁業収入			漁業支出		
	平成12年度	11	前年度差	平成12年度	11	増減率(%)	平成12年度	11	増減率(%)
1 そうびき沖合底びき網 50～100T 専業	2 636	2 759	△ 123	122 431	116 474	5.1	119 795	113 715	5.3
さんま棒受網 100～200T 兼業	15 304	25 564	△ 10 260	220 282	194 725	13.1	204 978	169 161	21.2
まぐろはえ縄 200～500T 専業	524	△ 30 019	30 543	338 663	309 446	9.4	338 139	339 465	△ 0.4
1 そうまきあぐり網 50～100T 専業	△ 20 014	12 595	△ 32 609	573 480	673 944	△ 14.9	593 494	661 349	△ 10.3
かつお一本釣 200～500T 専業	△ 32 163	13 617	△ 45 780	400 822	567 881	△ 29.4	432 985	554 264	△ 21.9
いか釣 100～200T 専業	△ 17 542	△ 11 609	△ 5 933	83 740	98 828	△ 15.3	101 282	100 437	0.8

3 大規模漁業会社の経済（1 経営体当たり平均）

売上総利益は123億5,600万円で前年度に比べ4億9,400万円減少した。

売上高は842億2,900万円であり、そのうち漁労売上高は28億5,300万円であった。

売上原価は718億7,300万円であり、そのうち漁労売上原価は29億2,300万円であった。

売上総利益から販売費及び一般管理費を差し引いた営業利益は11億5,500万円で前年度に比べ9億4,800万円減少し、当期純利益は5億4,700万円で前年度に比べ3億8,800万円減少した。

なお、売上高に占める漁労売上高の割合は約3.4%で、売上原価に占める漁労売上原価の割合は約4.1%となっている。

表5 大規模漁業会社の経済の概要

単位：百万円

区 分	平成12年度	11	増減率(%)	前年度差
売上総利益	12 356	12 850	—	△ 494
売上高	84 229	101 779	△ 17.2	△ 17 550
うち、漁労売上高	2 853	3 472	△ 17.8	△ 619
売上原価	71 873	88 929	△ 19.2	△ 17 056
うち、漁労売上原価	2 923	3 151	△ 7.2	△ 228
販売費及び一般管理費	11 201	10 747	4.2	454
営業利益	1 155	2 103	—	△ 948
経常利益	1 455	1 906	—	△ 451
当期純利益	547	935	—	△ 388